

由良川減災協議会では、分かりやすい防災情報提供、水害の危険性に対する意識啓発、避難訓練等の減災対策を行ってきました。これらの取組の効果を把握するため、氾濫想定区域に該当する地域に在住の方対象にアンケート調査を行いました。

河川防災情報の種類、洪水ハザードマップ、避難訓練、水防団等の活動について、アンケートを実施し、これまで行ってきた減災対策の取組の効果を評価し、改善と新たな対策の検討に役立てていきます。

アンケートの内容

○回答いただく方について

- ・性別やご年齢、お住まいの市について

○防災知識について

- ・大雨が予想されるときに確認すべき河川・防災情報：河川防災情報の種類、入手方法等について
- ・避難場所の確認方法及び避難方法：洪水ハザードマップ、避難時の確認事項について
- ・減災への取組：避難訓練や、出前講座への参加、水防団等の活動について

Q2-2. ハザードマップから確認できる情報について、知っているものをお選びください（複数回答可）

- ① 自宅付近の浸水の深さ
- ② 避難所の位置
- ③ 避難経路
- ④ 建物倒壊の危険性
- ⑤ 防災情報の入手方法
- ⑥ 避難の心得
- ⑦ 避難の方法（垂直避難、水平避難）
- ⑧ 非常持ち出し品
- ⑨ 知っているものはない

アンケート一部抜粋

これまでの取り組みによる住民への効果の把握

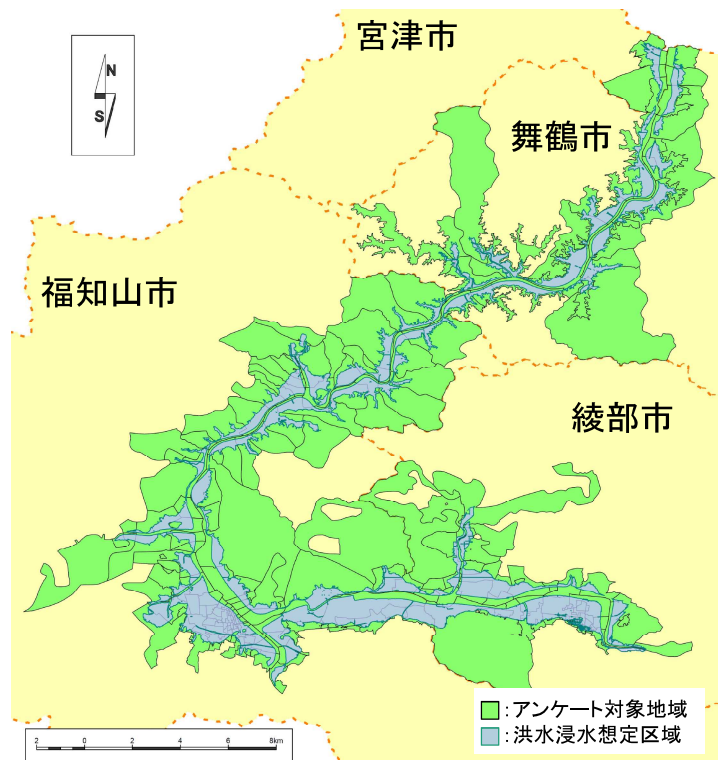
アンケート方法

アンケート調査は以下の方法で行いました。  
 アンケート実施方法：WEBアンケート  
 調査期間：令和4年2月9日～令和4年2月16日  
 設問数：46問  
 所要時間：15分程度  
 対象者：福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市の洪水浸水想定区域を有する地域に在住の方

アンケート結果

アンケート調査の結果、対象地域に在住の方のうち229名の方から回答を得られました。

対象市	回答者
福知山市	150
綾部市	72
舞鶴市	5
宮津市	2
計	229



アンケート結果から得られた課題

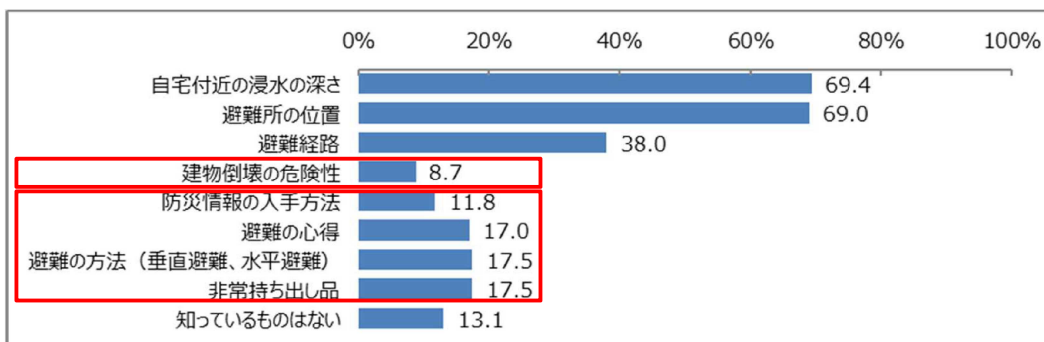
アンケート結果より、課題の抽出を行いました。

【主な課題】

- 課題1 ハザードマップの情報のうち、浸水深や避難所の位置以外の情報の認知度が低い
- 課題2 災害リスク別に避難所が異なることへの認知度が低い
- 課題3 浸水継続時間、浸水深の増加速度等への認知度が低い
- 課題4 避難訓練への参加率が低い
- 課題5 要配慮者への安全な避難体制等の構築が不十分
- 課題6 小中学生への安全な避難体制等の構築が不十分
- 課題7 避難所での感染対策があまり認知されていない
- 課題8 消防団(水防団)に所属したいと考えている人が少ない
- 課題9 自主防災組織や防災リーダーを知っている人が少ない
- 課題10 大規模洪水が発生する可能性や、そのときとるべき行動が認知されていない。
- 課題11 水害リスクラインやラジオ放送がほとんど利用されていない。
- 課題12 避難情報の意味があまり認知されていない
- 課題13 避難情報等が確実に取得出来ていない人が多い

課題1 ハザードマップの情報のうち、浸水深や避難所の位置以外の情報の認知度が低い

Q. ハザードマップから確認できる情報について、知っているものをお選びください。

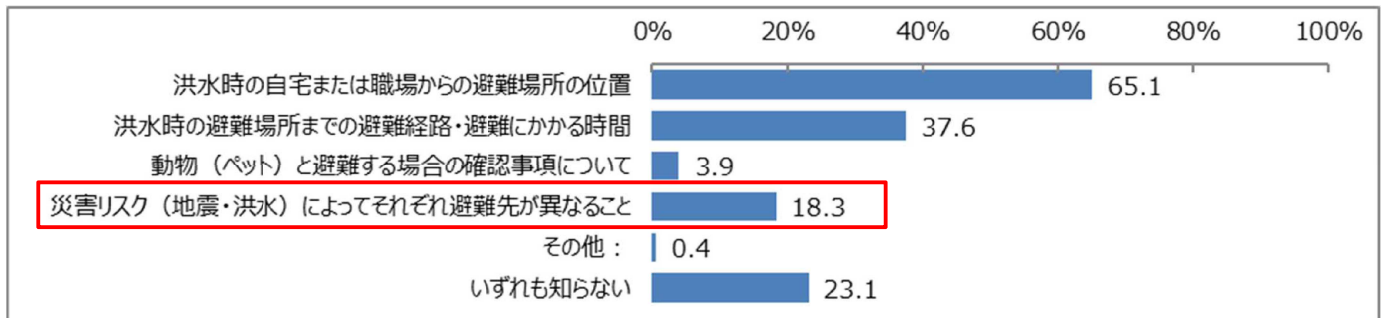


【考察】

- ・ハザードマップで建物倒壊の危険性が確認できることの認知度が非常に低い。
- ・ハザードマップの情報面に記載されている情報の認知度が低い。
- ⇒ 広報誌等でハザードマップの使い方をより一層周知することが望ましい。
- ⇒ 建物倒壊の危険性が確認できることや家屋倒壊の危険性の利用方法等、ハザードマップの情報面には、緊急時に役立つ情報がまとめられていることを重点的に説明することが望ましい。

課題2 災害リスク別に避難所が異なることへの認知度が低い

Q. 水害が起こる恐れがある場合の避難所と避難経路等についてどのような情報を知っていますか。

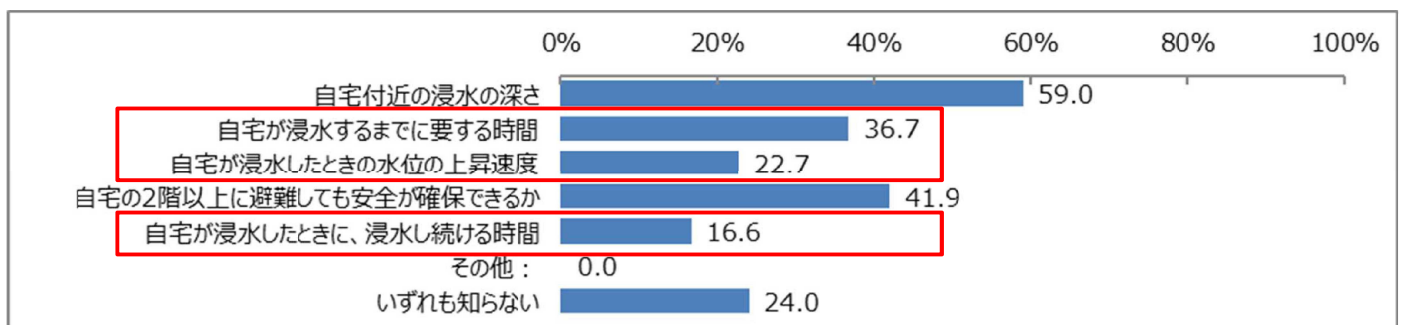


【考察】

- ・災害リスクによって避難先が異なることがあまり知られていない。
- ⇒ 広報誌等を利用して、災害リスクによって避難先が異なることを広く周知することが望ましい。

課題3 浸水継続時間、浸水深の増加速度等への認知度が低い

Q. 避難する必要性が生じたときに確認しておくことについて知っているものをお選びください。

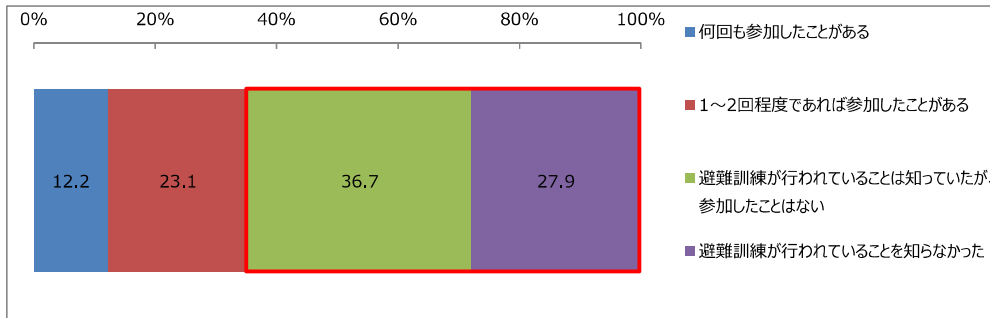


【考察】

- ・自宅が浸水するまでに要する時間、浸水したときの水位の上昇速度、浸水したときの浸水し続ける時間を把握している人は、比較的少ない。
- ⇒ 出前講座等の機会を利用して、浸水ナビで、河川氾濫開始からの浸水の時間経過を確認でき、それにより避難にどれくらい余裕があるか、垂直避難できるか等を判断できることをより周知することが望ましい。

課題4 避難訓練への参加率が低い

Q. 今までに避難訓練に参加したことはありますか。



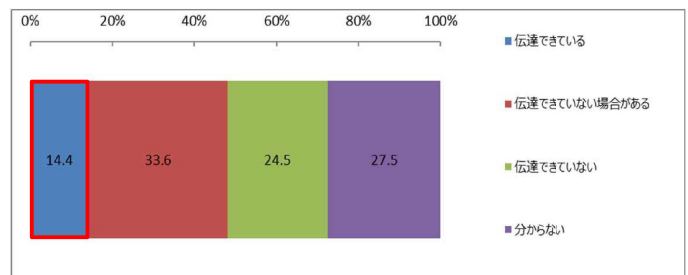
【考察】

- ・半数以上の方が避難訓練に参加したことがない。
  - ・避難訓練が行われていることを知らない人も比較的多い。
- ⇒ 広報誌や防災無線等を利用してこれまで以上に避難訓練の実施を周知し、参加を呼びかけることが望ましい。

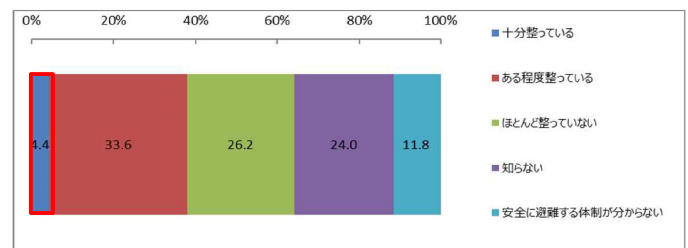
課題5 要配慮者への安全な避難体制等の構築が不十分

Q. 要配慮者（避難を支援するが必要な方）の方に対して、避難のための情報が確実に伝わるように、携帯防災メールの登録支援や、自主防災組織の訪問や電話による個別の声掛け体制の整備等を進めています。

要配慮者に避難のための情報が確実に伝達出来ていると感じますか。



Q. 洪水時に要配慮者の方が安全に避難するための体制（近所の人による声掛け、避難の付き添い等）が整っているとしますか。

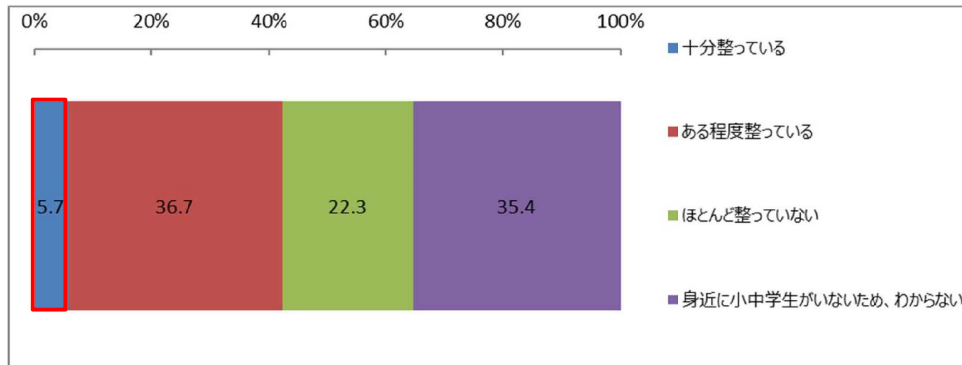


【考察】

- ・要配慮者に避難のための情報が確実に伝達できていると感じている人は非常に少ない。
  - ・要配慮者が安全に避難するための体制が十分に整っていると感じている人は非常に少ない。
- ⇒ コミュニティータイムラインの作成、個別避難計画の作成、避難訓練の実施等、要配慮者への確実な情報伝達体制や安全な避難のための体制を整える取り組みをより一層行うことが望ましい。

課題6 小中学生への安全な避難体制等の構築が不十分

Q. 洪水時に小中学生が安全に避難するための体制が整っていると思いますか。

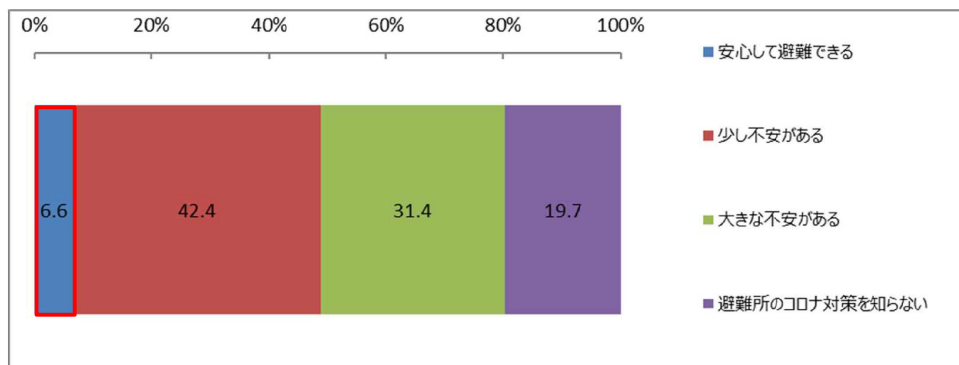


【考察】

- ・小中学生が安全に避難するための体制が十分に整っていると感じている人は非常に少ない。
- ⇒ 小中学校の避難確保計画の作成、避難訓練の実施等、小中学生の安全な避難のための体制を整える取り組みをより一層行うことが望ましい。

課題7 避難所での感染対策があまり認知されていない

Q. 避難所では、新型コロナウイルス感染症の対策を行っていますが、新型コロナウイルス感染症蔓延下でも感染症の心配なく避難できると思いますか。

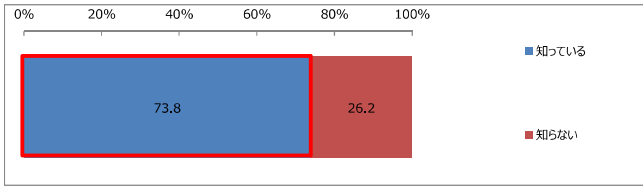


【考察】

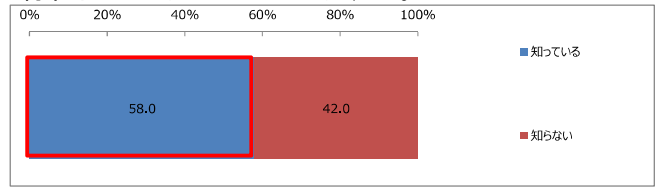
- ・新型コロナウイルス感染症蔓延下でも避難所に安心して避難出来ると感じている人は非常にすくない。
- ⇒ 広報誌等により、避難所でどのような感染症対策を実施しているかをより一層周知することが望ましい。

課題8 消防団（水防団）に所属したいと考えている人が少ない

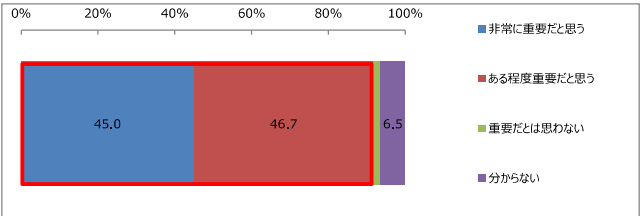
Q. 消防団（水防団）という組織について知っていますか。



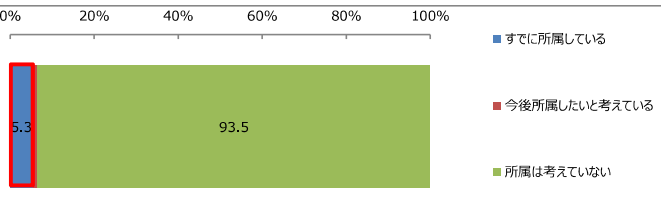
Q. 消防団（水防団）の方々が洪水時にどのような活動が行われているか知っていますか。



Q. 洪水時に消防団（水防団）の活動は重要だと思いますか。



Q. 消防団（水防団）に所属していますか。

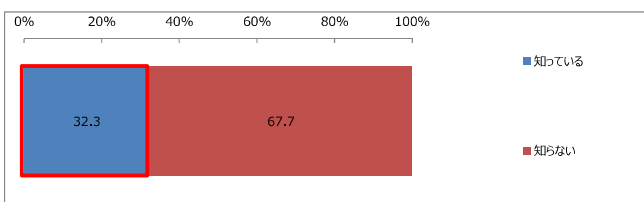


【考察】

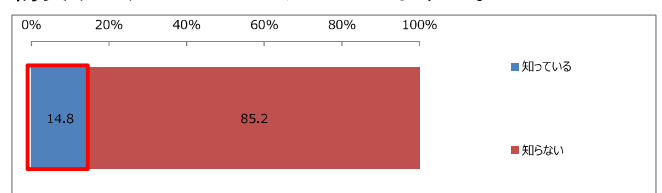
- ・消防団の存在は比較的多くの人に知られているが、洪水時の活動内容はそれほど知られていない。
  - ・洪水時の消防団の活動は重要と考えている人は非常に多いが、水防団に所属したいと考えている人は非常に少ない。
- ⇒ 広報誌で消防団の水害時の取組を紹介したり、消防団員を対象とした特典（地域店舗の割引等）を増やしたりする等、消防団員を増やす取組をより一層行うことが望ましい。

課題9 自主防災組織や防災リーダーを知っている人が少ない

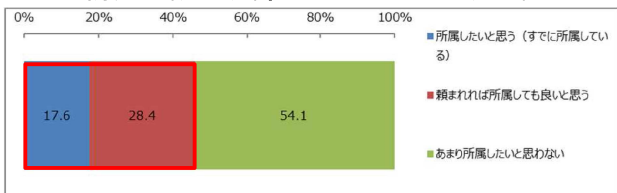
Q. 自主防災組織を知っていますか。



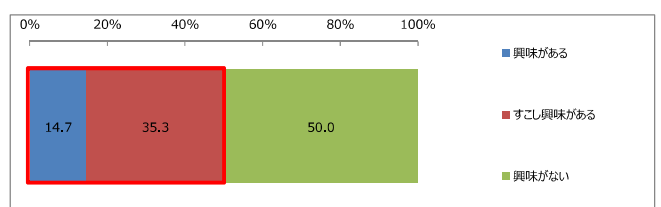
Q. 防災リーダーについて知っていますか。



Q. 自主防災組織に所属したいと思いますか。



Q. 防災リーダーに興味がありますか。



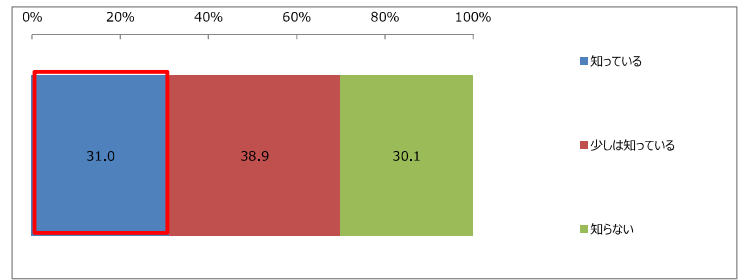
【考察】

- ・自主防災組織や防災リーダーを知っている人は少ない。
  - ・知っている人のうち半数程度は参加等に前向きな考えを持っている。
- ⇒ 広報誌で自主防災組織の取組や防災リーダーの役割を紹介する等、これらの認知度を高める取組をより一層行うことが望ましい。

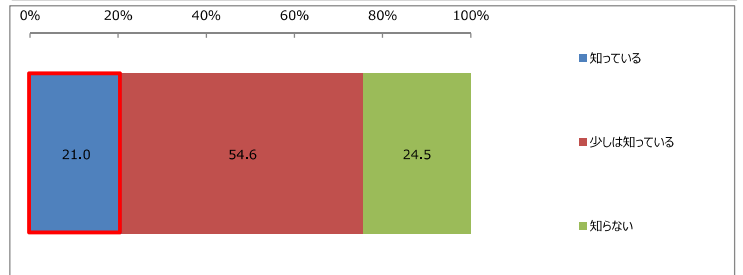


課題10 大規模洪水が発生する可能性や、そのときとるべき行動が認知されていない。

Q. 堤防等の河川整備により、治水対策を進めていますが、施設能力を上回るような大規模な洪水が発生し、氾濫が生じ命の危険に関わる可能性があります。そのような危険性があることを知っていますか。



Q. 大規模な洪水時に命を守るために、とるべき行動（日頃からの避難準備、災害時の情報入手、災害時の早めの避難等）を知っていますか。

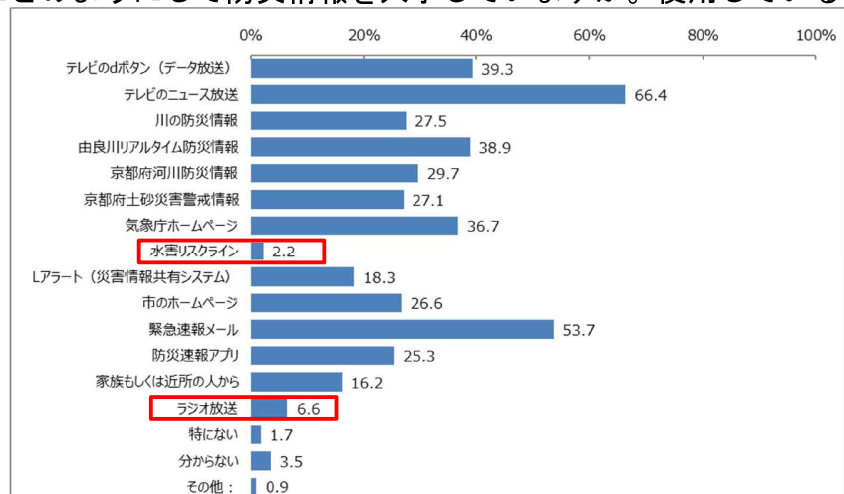


【考察】

- ・施設能力を上回るような大規模洪水が発生し命の危険性があることを知っている人は少ない。
  - ・大規模洪水時に命を守るためにとるべき行動をしっかりと知っている人は非常に少ない。
- ⇒ 広報誌や浸水CG等により、大規模洪水時にどのようなことが起こるかをより一層周知することが望ましい。
- ⇒ 広報誌等により、大規模洪水時にとるべき行動をより一層周知することが望ましい。

課題11 水害リスクラインやラジオ放送がほとんど利用されていない。

Q. 実際に大雨が想定されるときにどのようにして防災情報を入手していますか。使用しているものをすべてお選びください。

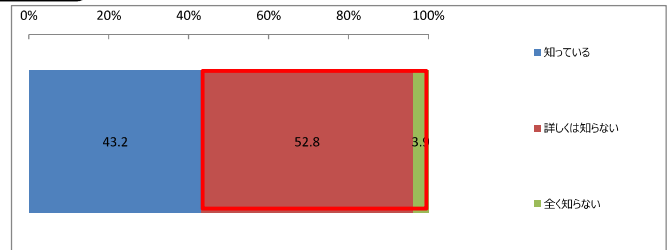


【考察】

- ・水害リスクラインを使用している人が非常に少ない。
  - ・ラジオ放送を利用している人が非常に少ない。
- ⇒ 広報誌等により、水害リスクラインによりどのような情報が提供されているかを重点的に周知することが望ましい。
- ⇒ 広報誌等により、ラジオ放送は停電時の有効な情報入手手段であることを周知し、利用促進を図ることが望ましい。

課題12 避難情報の意味があまり認知されていない

Q. 避難情報には高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保の3つがあります。これらが発令された場合に、それぞれどのような行動をしないといけないか知っていますか。

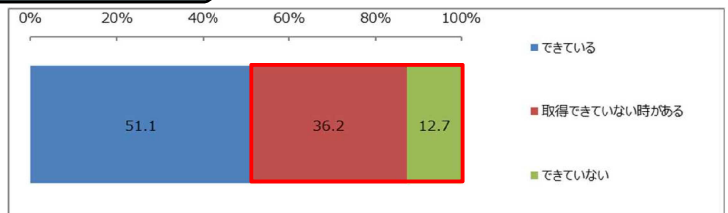


【考察】

- ・避難情報の意味を詳しく知らない人が多い。
- ⇒ 広報誌等により、避難情報の意味をより一層周知することが望ましい。

課題13 避難情報等が確実に取得出来ていない人が多い

Q. 洪水時に、避難のための情報（緊急速報メール、広報車による呼びかけ、無線、ラジオ放送等）を確実に取得できていますか。



【考察】

- ・避難情報が確実に取得出来ていない人が半数程度いる。
- ⇒ 広報誌等により、緊急速報メール等への登録の呼びかけや、避難情報等の入手方法の紹介をより一層行うことが望ましい。